

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 6 月 25 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	水越楓

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
京都大学
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
ゲノム科学実習
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 5 月 29 日 ~ 平成 26 年 6 月 6 日 (9 日間)
<b>京都大学</b>
京都大学
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
私は屋久島フィールド実習に引き続き、ゲノム実習でも植物チームに所属した。
《実施した内容》 1,サルの糞サンプルの DNA 同定に用いるための被子植物の解析 2,採取したシダの前葉体の種同定
DNA 抽出を行い、PCR にかき、電気泳動で DNA が増殖しているかを確認した後にシーケンスを行った。我々が主に解析したのは2のシダについてであるため、以下シダについて述べる。
屋久島で採取した前葉体のうち 48 サンプルを解析に用いた。三種のプライマーを用いたが、最終的に上手く読めたのは一種のみであったが、38 サンプルのシーケンスデータが得られた。これらを MEGA6 で解析し、ネット上のデータバンクと照合し、種同定を行った。 最終日の6/6に、これらをまとめた内容のポスター発表を、国際セミナーで行った。
DNA の抽出から配列を読むところまで通して行ったのは初めての経験で、名前は聞いたことがあってもどういった仕組みで、何を使っている、何がおこっているのかをきちんと把握していなかったため、大いに学習することができた。初心者コースとして設置された今回のチームは基礎をしっかり学べたため、今後さらにゲノムを勉強していく上で有益であるように思う。 また、もしかしたら新種を発見??という、DNA 解析のワクワクを味わうことができ、難しそうで少し敬遠していたゲノムの世界に興味を持てるようになった。
(写真は電気泳動の準備)

<b>6. その他</b> (特記事項など)

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書  
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)